



## いわて生協 環境活動報告書 2008年版 (2007年4月度～2008年3月度の活動報告書)

### 環境理念

いわて生協は、地球の未来に責任をもつための行動を積極的にすすめ、生産・流通・消費・廃棄までの全過程にわたって、環境負荷低減と省エネルギー、省資源、リサイクルなどの環境保全型の社会づくりをめざします。

そうした中で、私たち一人ひとりが人間として、地球市民として、ライフスタイルを見直し、組合員と一緒に「持続可能な社会を実現する」ために率先して取り組むとともに、環境保全型社会システムづくりへの積極的な提言なども行い、社会に貢献できるようにします。

### 環境方針

いわて生協は、食料品、家庭用品、衣料品、灯油等の商品を組合員に供給する事業と共済、葬祭、介護福祉等の事業を行っています。

こうした活動、商品、サービスによる環境影響の大きな項目については、目的・目標を設定し、定期的に見直すとともに、環境負荷の軽減と汚染の予防、環境マネジメントシステムの継続的改善を図ります。

- (1) 環境関連の法律・規制・条例・その他受入れを決めた要求事項を遵守するとともに自主基準を制定し管理を進めます。
- (2) いわて生協は環境理念の実現をめざして次の活動を進めます。
  - ① 地球温暖化と化石燃料等の枯渇を予防するために、電気使用量の削減、業務用燃料の抑制による省エネルギー、省資源化を図ります。
  - ② 環境に配慮したリサイクル商品などの環境商品、遺伝子組み換え原料を排除した商品の拡大とその普及に努めます。
  - ③ 地産地消を重視し、環境負荷の少ない国産、県内産の生産物の普及を図り、産直商品の取扱比率の向上を進めます。
  - ④ 廃棄物処分場不足等の予防のために、「ゼロエミッション(ごみ排出ゼロ)」をめざし、廃棄物の削減及び分別の徹底を図り、再資源化率を向上させます。
  - ⑤ 組合員によるリサイクル活動やマイバッグ持参(レジ袋削減)の取り組みを推進します。
  - ⑥ 紙類の使用量を抑制するとともに、事業活動でのリサイクルを推進します。
  - ⑦ 車両排気ガス発生による大気汚染、地球温暖化を予防するために、アイドリングストップ運動を取り組み、また環境負荷の少ない車両の導入を図ります。
  - ⑧ 環境に配慮した物品、資材の調達を推進します。
- (3) 定型教育、内部報、事業所ごとの会議等により、いわて生協の常勤者及び常駐していわて生協のために働く人への教育・啓発を積極的に行い、環境方針の理解と周知、環境意識の向上を図ります。
- (4) この環境方針を内外に公開するとともに、環境活動の取組み状況について定期的に公表します。

制定日2000年7月20日 最新第10版への改定日2008年6月2日 いわて生活協同組合 理事長 池田 和昌

# 14 環境影響の把握

## ■ いわて生協の事業活動が環境に与えている負荷の状況

### INPUT 投入

#### ■ 商品

#### ■ 加工用原材料

#### ■ エネルギー、水資源

電力…… 26,375,274kwh  
LPG…… 373,145m<sup>3</sup>  
水道…… 135,087m<sup>3</sup>  
灯油…… 212,179ℓ  
ガソリン…… 362,611ℓ  
軽油…… 318,552ℓ  
車両LPG…… 181,850ℓ  
ドライアイス… 714,155kg

### 仕入れ・配送



#### ■ 主な資材の消費

**紙**  
コピー紙(A4版換算)…… 959万枚  
コピー紙以外の紙…… 2,927トン  
(チラシなど)

#### ■ 容器・包装材

レジ袋…… 42,545kg  
ポリ袋…… 22,110kg  
トレイ…… 135,847kg  
ラップ…… 17,314kg  
共同購入シッパー内袋… 33,480kg

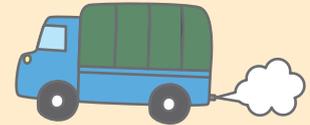
#### ■ 車両の使用台数 (195台)

ディーゼル車…… 107台  
ガソリン車…… 49台  
LPG車…… 39台  
(2008年3月の保有台数：  
委託車両は含みません)

### OUTPUT 排出

#### ■ 大気への排出

大気へのNOX 排出量試算…… 132,751kg  
CO<sub>2</sub>の排出量試算…… 14,756トン  
(前年度14,101トン)



#### ■ 廃棄物

一般廃棄物の量…… 584,274kg  
廃家電排出 (家電リサイクル法)…… 486台



### RECYCLE リサイクル

#### ■ 事業活動の中で分別・再資源化しているもの

項目	2007年度	前年比
紙	82,117kg	103%
びん・缶	31,504kg	89%
発泡スチロール	85,063kg	98%
ダンボール	1,503,046kg	87%
廃食用油	33,500kg	91%
魚アラ	166,586kg	111%
肉脂	33,617kg	109%
生ごみ	113,252kg	124%
共同購入シッパー内袋	5,638kg	143%
商品納品時フィルム	4,863kg	188%
合計	2,059,186kg (2,059トン)	92%

#### 組合員のリサイクル活動 (店・共同購入)

<b>トレイ</b>	623万枚 回収	▶	185万枚 に再生
<b>ペット ボトル</b>	94万本 回収	▶	329万枚 に再生
<b>卵 パック</b>	99万枚 回収	▶	99万枚 に再生
<b>牛乳 パック</b>	151万枚 回収	▶	トイレット ペーパー 約12万ロール に再生
<b>共同購入 チラシ</b>	1,412トン 回収	▶	アイコープ長持ち45m トイレットロール 約178万ロール に再生

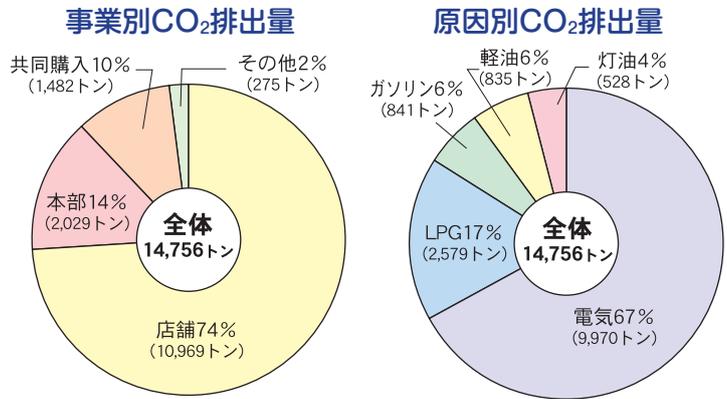
※業者に売り渡して再資源化した数量です。

COOP  
I W A T E

### SUPPLY 商品供給

#### ■ いわて生協の二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) 排出は増加 (前年比104.6%)

二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) 排出量は、2006年度に比べて655トン (4.6%) 増加しています。コープ中堤の閉店等の減少要因があったものの、セリオホールみただけの通年営業、セットセンターの拡張、店舗では夏場の高気温による空調の稼働増加、営業時間の延長等の要因があり、いわて生協全体では増加しました。



#### ■ 2007年度事業でのCO<sub>2</sub>排出削減は (計測評価可能項目のみ) 合計182トン

##### エスコサービス<sup>(\*)</sup>による冷凍・冷蔵設備の電気使用量の削減

	削減できた電気使用量	CO <sub>2</sub> 削減効果
ベルフ仙北 (盛岡)	224,097kwh	98トン
コープアテルイ (奥州)	176,646kwh	77トン

(エスコサービス「たてんぼくん」システムの計測データ使用)  
 ※ネットワークにより稼働状況をモニタリングし、外部から強制的に冷凍・冷蔵設備の稼働を制御するしくみ。

##### 太陽光発電

	発電量	CO <sub>2</sub> 削減効果
セリオホールみただけ屋上(10kw型)	12,039kwh	5.3トン

##### 燃料転換 (共同購入車両で食廃油からの再生バイオディーゼルの使用)

	CO <sub>2</sub> 削減効果
使用量 471ℓ	1.2トン

#### ■ 組合員の活動によるCO<sub>2</sub>削減効果

合計375トン

##### 1) 電気ダイエットコンクールにより2.7トン

夏の1か月間で電気の削減にチャレンジする「電気ダイエットコンクール」への参加申し込みは622人、結果報告書の提出者は485人でした。うち300家族が、昨年よりも使用量を減らしてダイエットに成功。全体で節約できた電気は5437.7kWh (4人家族1か月の電気使用量の18家庭分)、CO<sub>2</sub>量が2,773kg (25mプール4.5杯分) となりました。

##### 2) マイバッグ持参・レジ袋節約により193トン

レジ袋1枚をつくるために必要な石油は18.3ml。2007年度1年間でレジ袋502万枚節約した効果で、CO<sub>2</sub>を193トン抑制したことになります。(29ページ参照)

##### 3) リサイクル活動により179トン

トレイやペットボトルなどの使用済み食品容器や共同購入チラシの回収・リサイクルにより再資源化した量をCO<sub>2</sub>削減効果として評価してみると、年間179トンに相当します。

## 2008年度はCO<sub>2</sub>排出400トン削減(07年度比△2.7%既存施設)をめざします

地球温暖化防止自主行動計画として、2008年度は以下の対策を実施します。これにより比較検証可能な対策でCO<sub>2</sub>を400トン以上削減することをめざします。

### 1 店舗の照明

CO<sub>2</sub> 35トン削減

【内容】店舗の照明、売り場スポット照明の見直し（消灯や削減）

### 2 本部・店舗(売り場外)・共同購入支部の照明

CO<sub>2</sub> 15トン削減

【内容】カットワンシステム導入、プルスイッチ化、看板塔の消灯

### 3 店舗冷凍ケースへのナイトカバー設置

CO<sub>2</sub> 6トン削減

【内容】未設置店舗（マリンコーブドラ）への導入

### 4 店舗への節電システムの新規・追加導入

CO<sub>2</sub> 287トン削減

【内容】「ミエタロー」システムの導入（2店舗）  
「エスコサービス」を1店舗に追加導入し、計3店舗に

### 5 自動販売機の削減・交換

CO<sub>2</sub> 3トン削減

【内容】本部での削減・店舗での検討

### 6 セットセンター・支部冷凍庫の間欠運転

CO<sub>2</sub> 26トン削減

【内容】冷凍庫・冷蔵庫で運転・休止を繰り返すしくみ導入

### 7 太陽光発電

CO<sub>2</sub> 5トン削減

【内容】セリオホールみたけの太陽光発電（既存）

### 8 バイオディーゼルの使用拡大

CO<sub>2</sub> 23トン削減

【内容】年間8,730ℓまで使用を増やす

## 多くの組合員家庭・常勤者の参加でCO<sub>2</sub>削減をすすめます

2008年度は、より多くの組合員家庭に地球温暖化防止のための行動を呼びかけ、いわて生協常勤者もCO<sub>2</sub>削減の取り組みを強めます。

### 「1日エコライフ」を7万人に呼びかけ

日本生協連の提唱する「1日エコライフ」キャンペーンに参加し、店舗・共同購入から7万人に「1日エコライフ」チャレンジシートをお届けします。電気ダイエットコンクールも継続して取り組み、家庭での省エネ行動への参加を大きく広げます。



日本生協連「みんなのでエコ」キャンペーン（6～8月）。

「1日エコライフ」への参加を広げます。

### レジ袋節約率を全店平均50%以上に

レジ袋節約率は全店平均で50%以上（来店組合員の過半数がレジ袋を使わない状態）をめざして取り組みます。

### 常勤者もさらに省エネ行動を強めます

日常業務の中での節電手順を守ることに加え、「クールビズ」「ウオームビズ」や待機電力を減らしたり、ノー残業デー、車両の乗り合い、マイカー通勤しない日など多彩な行動を強めます。

# 16 レジ袋節約・マイバッグ持参の取り組み

## ■ レジ袋節約率は全店平均45.8%へ前進

「来店組合員の過半数がレジ袋を使わない」状態をめざして、2008年度末までにはレジ袋節約率45%にすることを目標に取り組みを進めました。

店舗ではマイバスケット（レンタルかご）の普及やマイバッグのおすすめ、レジ袋のリユース（レジ袋を回収して再使用していただく）、常勤者はレジ袋をもらわないことの徹底など、工夫して取り組みました。

また、2007年4月の容器リサイクル法改正前に、岩手県と共同の宣伝行動も実施しました。

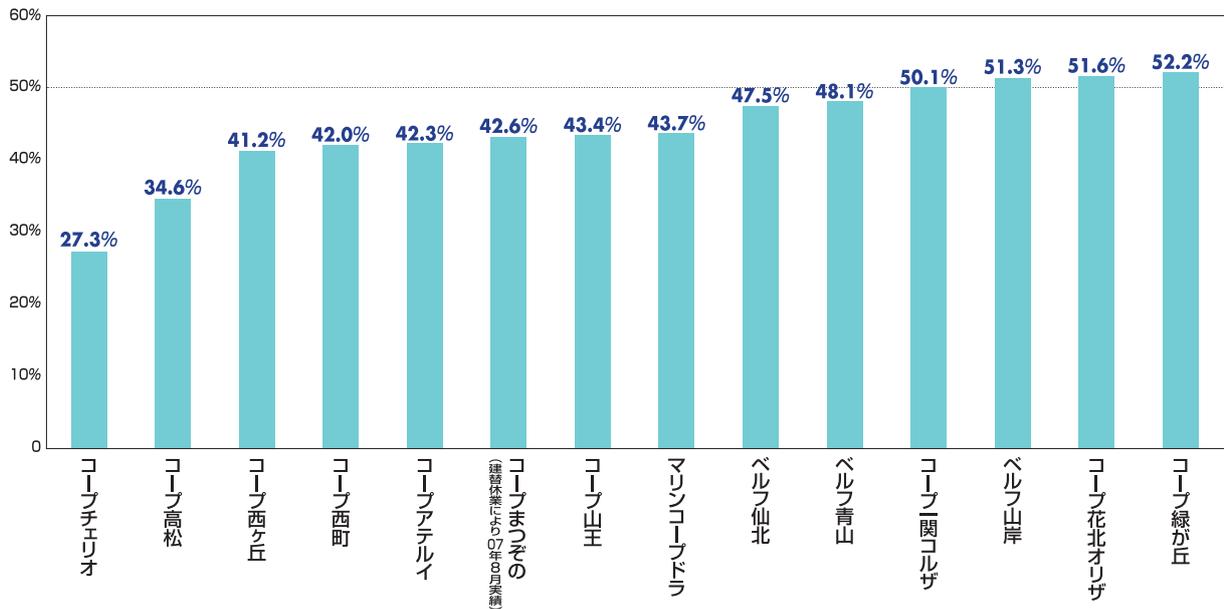


マイバスケットは2万5千個以上が利用されています。



ダンボール利用やレジ袋リユースもおすすめしています。

### 4店舗で50%を超え、全店平均45.8%に（2008年3月）



## ■ 年間502万枚のレジ袋を節約できました

こうした取り組みにより、レジ袋節約率は全店平均で45.8%（2007年度末＝2008年3月）となりました。また、全店（13店舗）中4店舗では50%をこえ、2人に1人がレジ袋を節約する状況をつくることができました。2008年度は、いよいよ全店平均で50%超をめざします。

またマイバスケットの普及は、2007年度は3,107個になり、2000年からの累計で25,000個を超えました。

### 2007年度累計

レジ袋節約率 (2007年度末)	45.8%
節約できたレジ袋	502万枚
節約できた石油	90,391ℓ (18ℓ缶で5,022缶)
CO <sub>2</sub> 排出抑制効果	193,409kg

# 17 事業からの排出ゼロをめざす取り組み

## ■ 廃棄物は減少しました

いわて生協の一般廃棄物（可燃ごみ）は、584トン（前年比93%）でした。

事業からの排出物をリサイクル有価物として売却する取り組みを強めたことや、共同購入の常温管理商品の箱詰めセット作業がみやぎ生協へ移行したこと等の結果です。

### 〈廃棄物〉

	2006年度	2007年度
一般廃棄物	627,834kg	584,274kg

### 食品リサイクル率

**59.4%**

$$\text{食品リサイクル率}(\%) = \frac{\text{リサイクルできている量 (296トン)}}{\text{リサイクル量 (296トン)} + \text{食品系廃棄物 (202トン)}} \times 100$$

## ■ 食品リサイクル率は59%に向上

コープ花北オリザとコープアテルイは、生ごみ全体をたい肥化リサイクルするしくみに参加しています。また、店舗や肉・魚の加工センターでの肉脂、魚のアラ、店舗惣菜部門の食廃油をリサイクルすることで食品リサイクル率を高めてきました。2007年の食品リサイクル法改正で、小売業は食品リサイクル率45%が目標となりました。

いわて生協は、すでに59%とリサイクル率目標に到達していますが、今後毎年1%ずつリサイクル率向上が求められるため、2008年度から生ごみリサイクル処理機の導入など取り組み強化を検討しています。

## ■ 事業からの排出物リサイクル 「分別」徹底し資源化が可能に

事業活動からの排出物を可能な限り資源化する取り組みを進めています。従来の事務所からの紙、ダンボール、びん・缶（一部店舗での回収）、共同購入冷凍・冷蔵品シッパー内袋、商品納品時フィルム、カゴ車（鉄）などのリサイクルに加え、2007年度は廃プラスチックコンテナや、劣化した朝配達牛乳受け箱、色つきペットボトル、梱包のプラスチックバンドのリサイクルを実施しました。

### 事業からの排出物でリサイクルしている例



共同購入の通い袋や破損した箱をリサイクル。



ラベルの芯。



ペットボトルのフタを分別してリサイクル。



朝配達牛乳受け箱はプラスチックと発泡スチロールに分解してリサイクル。



破損したカゴ車は車輪を外してリサイクル。



梱包用プラスチックバンドを分別してリサイクル。



フルーツケースやクッション材もリサイクル。

### 事業系の分別リサイクル量 (kg)

項目	2006年度	2007年度	前年比
紙	79,530	82,117	103%
びん・缶	35,360	31,504	89%
発泡スチロール	86,555	85,063	98%
ダンボール	1,719,871	1,503,046	87%
廃食油	36,894	33,500	91%
魚アラ	149,535	166,586	111%
肉脂	30,809	33,617	109%
生ごみ	91,036	113,252	124%
共同購入シッパー内袋	3,947	5,638	143%
商品納品時フィルムなど	2,589	4,863	188%
合計	2,236,126 (2,236トン)	2,059,186 (2,059トン)	92%

## ■ 約1,560トンを組合員家庭から再資源化

リサイクルは食品トレイが減少しました。牛乳パック、ペットボトル、卵パックはほぼ前年並みとなりました。共同購入チラシは利用人数の増加によりチラシ発行量が増加、回収量も引き続き増加しています。組合員がいわて生協のリサイクル回収に出した総量は1,560トンに上ります。

### 組合員のリサイクル回収量

項目	2006年度(kg)	2007年度(kg)	前年比
牛乳パック	52,560	50,270	96%
トレイ	38,249	31,148	81%
ペットボトル	58,640	56,545	96%
卵パック	13,288	16,750	126%
共同購入チラシ	1,267,593	1,411,549	111%

※卵パックは、2006年度回収分が2007年度分にずれ込んでいます。(再生処理した時点で処理量が報告されるしくみのため)

## ■ 組合員のリサイクル活動のCO<sub>2</sub>削減効果は年間179トン

リサイクル活動は資源の追加投入を遅らせ、焼却廃棄によるCO<sub>2</sub>排出を抑制する効果があります。日本生協連は、使用済みの容器包装を生協で回収して全量をリサイクルする場合、一般的な処理(社会全体の平均的処理)をした場合よりも、どの程度の環境負荷低減効果があるかを各容器包装1kgあたりで試算しています。その係数でいわて生協の組合員によるリサイクル活動を試算すると、CO<sub>2</sub>削減効果は179トンと試算されます。

### リサイクル回収によるCO<sub>2</sub>削減効果

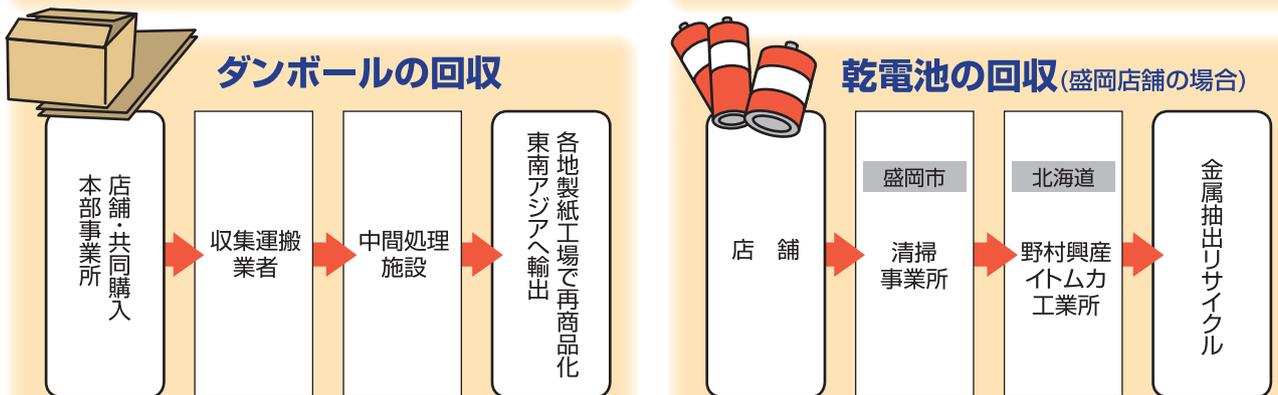
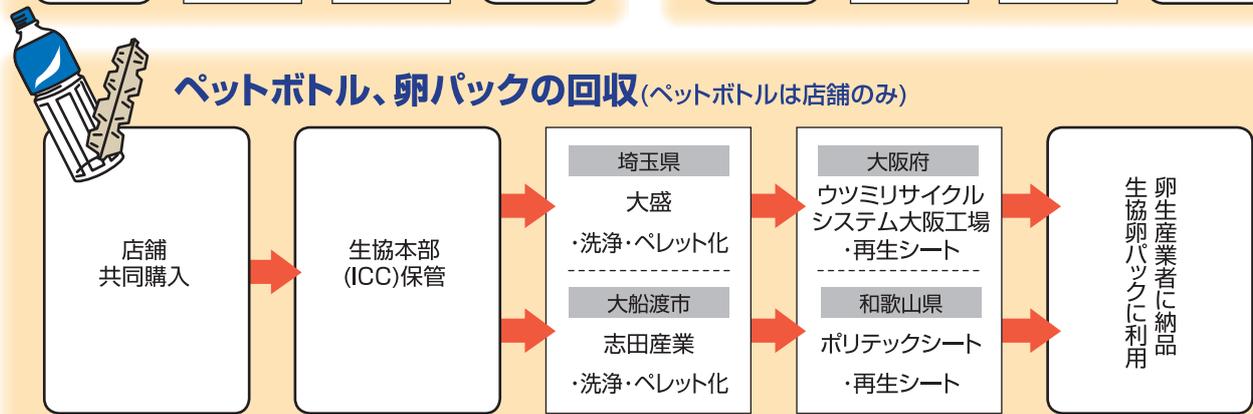
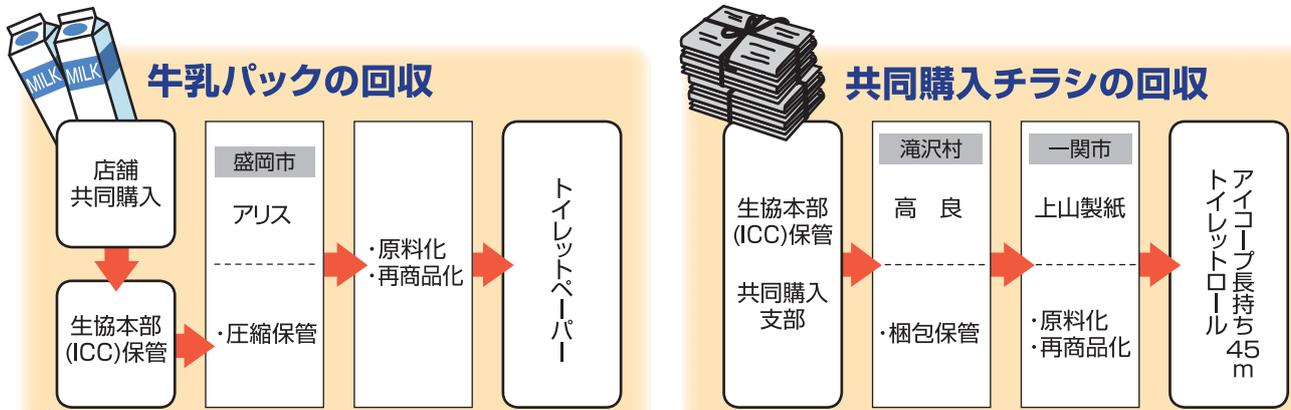
項目	2007年度回収量	CO <sub>2</sub> 削減効果係数(kg当たり)	CO <sub>2</sub> 換算
牛乳パック	50,270kg	170g	8,545kg(8.5トン)
トレイ	31,148kg	3,200g	99,673kg(99.7トン)
ペットボトル	56,545kg	733g	41,447kg(41.4トン)
卵パック	16,750kg	733g	12,277kg(12.3トン)
シッパー内袋	5,638kg	2,968g	16,733kg(16.7トン)
合計	160,351kg		178,675kg(178.6トン)

## ■ 2007年度環境会計

「環境会計」は、1年間の環境関連の費用と効果を概略的に説明しています。いわて生協の環境関連費用のあらましを外部にお知らせし、「環境経営」の視点から環境活動がどのようなコスト効果を生み出しているかを表しています。

環境保全の分類	環境コスト	内容
廃棄物の処理費用	3085万円	一般廃棄物収集・運搬の契約費用・発泡スチロール等の処理委託費。魚アラ回収リサイクル費用等
環境保全のための費用	1234万円	大型店舗の環境維持状況(空気、水、害虫等)の検査・維持管理費用281万円
		浄化槽の保守点検費用、修繕費用215万円
		グリストラップ(除害設備)の定期清掃、排出物の処理費用690万円
		灯油地下タンクの定期漏洩検査・灯油施設点検費用48万円
地球温暖化対策・省エネのための費用	819万円	太陽光発電発電量の電気料金換算16万円、2007年度減価償却費125万円 小計109万円
		エスコサービスによる電気料金削減効果推計520万円(制御量に料金単価をかけたもの:店舗全体の電気料金削減に直接連動しません)、エスコサービス料金(年間)210万円 小計+310万円
		空調効率向上のためのフィルター交換・清掃248万円、空調機の効率維持のための保守・点検費用658万円、店舗冷凍・冷蔵設備の保守点検契約費用114万円 小計1020万円
レジ袋節約運動の直接収支	+180万円	レジ袋減少分823万円(節約枚数502万枚) レジ袋節約ポイントサービス643万円(1,287万ポイント×0.5円)
容器包装リサイクル法・家電リサイクル法の負担額	962万円	容器包装の再資源化委託料金946万円
		回収した対象家電品の拠点への運搬費用16万円
組合員のリサイクル物回収・再資源化の直接収支	159万円	作業委託費315万円、機械保守料・備品50万円、ペットボトル・卵パック運送費58万円 小計423万円
		リサイクル品売却代金/牛乳パック39万円、ペットボトル・卵パック169万円、トレイ56万円 小計264万円
事業からの排出物の有価売却	+1445万円	共同購入チラシ・本部古紙リサイクル1308万円、ダンボール売却88万円、店舗廃食油24万円、肉脂9万円、鉄・廃プラスチック他16万円
ISO14001更新審査費用	94万円	(株)日本環境認証機構によるサーベイランス審査料金

## ■ いわて生協のリサイクルの流れ



# 19 環境に配慮した商品の普及

## フードマイレージの視点で県産品、国産品の供給を強化

### 農産部

#### 「顔とくらしの見える産直品の供給」 引き続き6億円を超える

いわて生協の「産直3原則」に基づき、「顔とくらしの見える」産直品の供給を進めました。各産地と使用農薬を商品台帳で確認し、春の作付け会議で品目拡大や作付け目標を決めています。天候影響で生育が遅れ、目標とした6億2千万円は下回ったものの、ほぼ前年並みの6億1,046万円の供給実績となりました。

### 水産部

#### 「三陸産アイコープ商品の供給」 3品を新規開発

輸入水産物よりフードマイレージが少ない三陸産アイコープ商品を普及しました。わかめやいくら醤油漬けなどの利用が伸び、いか一夜干し、しめさば、かきフライの3品を新規開発しました。供給高は5,400万円と前年よりも約100万円増加しました（目標比99%）。

### 酒・米部

#### 「産直米の供給を734トンに」 年間692万トンへ増加

JAいわて花巻、JA新いわて、JA岩手ふるさと、生産者団体と提携した産直米の供給は692トンになり、前年より180トン増加しました。目標に約40トン届きませんでしたでしたが、2007年度も過去最高の利用量となりました。

### 惣菜部

#### 「県産食材を使用した商品の普及」 供給高が8,300万円を超える

アイコープのさくら卵や若鶏、豚肉等をはじめ、県産みそや大豆、椎茸など県産食材を使用した商品の開発、供給を進めました。供給高は8,326万円（計画比110%）と、初めて8千万円台になりました。

### 日配部

#### 「岩手県産大豆を使用した豆腐の 構成比引き上げ」 供給構成比が0.5%アップ

県産大豆使用の豆腐の供給構成比について前年度の56.8%を維持することを目標に、「岩手を食べよう」企画でのメニュー提案や、お盆の「煮しめ材料」提案などを積極的に行い、供給構成比57.3%に向上させることができました。

### 畜産部

#### 「アイコープ加工肉4品、 日生協コープ加工品3品の普及」 着実に利用を広げる

食品添加物の少ない加工肉7品の供給を進めました。毎月の重点商品に位置づけ、売り場POP等で情報を発信、利用を呼びかけました。供給高は2,543万円となり計画を達成（107%）。取り組みを開始した2005年度比では118%となり、着実に利用を広げました。

### グロサリー部

#### 「県内製造のアイコープ商品の 供給構成比を維持」 供給高6,700万円超える

アイコープつゆ4倍、焼肉のたれ、長持ち45mトイレットロールなど、アイコープ商品のうち県内製造品の供給拡大に取り組みました。セールの活用や重点商品への位置づけで、企画を工夫し進めました。これらの供給高は6,718万円（目標比106.2%）となり、供給構成比も向上しました。

## 日本のフードマイレージ（量×距離）は世界一

フードマイレージは、生産地と消費地が遠くなると輸送エネルギーがより多く必要になるため「食料品は地産地消（生産地と消費地が近いこと）が望ましい」という考え方に基づいています。国際的な食料移動は地球環境に大きな負荷をかけるほか、生産地が消費地から大きな経済的圧迫を受けるといった問題も指摘されています。フードマイレージの数値が大きいほど、その消費地は食料に関してエネルギーを費やしていることとなります。

### 各国のフードマイレージ

国名	総量	国民一人当たり
日本	9002億 800万	7,093
韓国	3171億6900万	6,637
アメリカ合衆国	2958億2100万	1,051
イギリス	1879億8600万	3,195
ドイツ	1717億5100万	2,090
フランス	1044億 700万	1,738

単位：トン×キロメートル（この項：「ウィキペディア」より）

## 第4回「森林の募金」は県内3団体へ10万円ずつ贈呈しました

組合員が利用した環境配慮商品の利用金額の1%をお取引先から協賛いただき、いわて生協拠出金と合わせて県内環境団体へ寄付している「森林の募金」。第4回となった2007年度は、3団体へ贈呈しました。

### ①胆江森クラブ（NPO法人）（奥州市・2003年～・会員16人・自薦）

活動内容：胆沢地方の伝統的な景観を支える屋敷林「エグネ」を後世に残すため、高齢者宅中心にボランティアでエグネの手入れを行う。

### ②くじ・川の会（久慈市・1989年～・会員132人・自薦）

活動内容：川的环境整備、生態系保護（ホタル・トンボの里づくり）、川中島の造成と維持、低水位護岸の覆土等の活動。

### ③遠野エコネット（遠野市・2004年・会員20人・自薦）

活動内容：遠野の自然環境保全活動。子ども自然体験・学習、植樹、森林整備等。



2007年12月、産直運動推進大会で贈呈しました。

### 「森林の募金」これまでの贈呈先(各団体に10万円)

第1回 (2004年)	4団体へ	NPO法人ボランティア山仕事くらぶ、カタクリの会、みちくエコステーション木霊の駅、釜石ホタル友の会
第2回 (2005年)	3団体へ	早池峰にゴミは似合わない実行委員会、NPO法人いわて森林再生研究所、葛根田ブナ原生林を守る会
第3回 (2006年)	5団体へ	岩泉「森の日」事業実行委員会、一関地方森林組合青壮年部、日野沢森林愛護少年団育成会、釜石東部漁業・釜石森林組合青年部、NPO法人イーハトーブ里山水棲生物保存会

### 第4回「森林の募金」に協賛いただいたお取引先

- ・(有)佐勇水産
- ・(株)純情米いわて
- ・(株)岩手畜産流通センター
- ・銀河フーズ株式会社
- ・(株)モリレイ
- ・上山製紙株式会社
- ・日本生協連

## いわて生協が支援し2社がIES（いわて環境マネジメントスタンダード）取得

ISO14001認証を取得した経験を県内企業に広めようと、お取引先企業に岩手版環境マネジメントスタンダード（IES）をお奨めしています。2007年度もいわて生協主催で、IES構築講座などに取り組みました。この活動から、事務機商事株式会社、テス東北株式会社の2社が、IES認証を取得しています。

## 家電リサイクル法順守状況が評価されました

いわて生協家電センターは、家電リサイクル法に基づく業務が評価され、2007年6月に「家電リサイクル券取扱優良店」の認定を受けました（2009年まで）。大手家電量販店の法違反が問題になったことで実施された経済産業局の臨時査察でも、運用状況が高く評価されました。



順法努力が評価された家電センターメンバー。

## 「エコエコ探検隊」のとりくみ

「エコエコ探検隊」は、店舗を会場に親子で環境を学ぶ活動。2008年1月に、一関コープ・盛岡南コープの組合員がそれぞれ企画し、コープ一関コルザ、ベルフ仙北合わせて52人の親子が参加しました。参加者は、店内で「エコマークのついた商品」「詰め替え商品」「岩手県産の野菜」を探したり、バックヤードでは「魚アラのリサイクル」「ごみを減らす作業」を見学し、環境活動の実際を学びました。最後には、「家庭でもリサイクルが大事」などの感想を発表し、交流。マスコミの関心も高く、新聞3紙で報道されました。



コープ一関コルザでの「エコエコ探検隊」。

## ISO14001：2004年版の第三者認証 総合評価は「向上」

いわて生協は2000年12月、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証を取得しました。その後2回の更新審査を経て、第三者認証を継続しています（認証期限2009年12月20日まで）。

### 2007年10月に外部審査機関の「1年次サーベイランス」を受けました。

- 1) 審査機関／株式会社 日本環境認証機構（JACO）
- 2) 実施時期／2007年10月（3日間）
- 3) 審査員／主任審査員 吉川洋 幹事審査員 西尾喜郎
- 4) 審査結果／総合評価「向上」
- 5) 指摘事項／5件の指摘がありました（いずれも「不適合」以外の「観察」事項で是正処置の実施を確約しました）。



事業所に対する外部審査の様子。

### 所見メモ（指摘事項以外の事実関係・評価すべき点） 6件の評価すべき点について所見メモがありました。

#### ■有効性に関して

「2006年度の目的・目標は26項目中19項目が達成されています。以下の活動の成果が達成に寄与しています。

- ①太陽光発電の導入（セリオホールみだけ）、冷蔵冷凍ショーケースコンプレッサ外部制御（エスコサービス）導入（ベルフ仙北・コープアテルイ）、バイオディーゼル燃料の使用、軽自動車への切り替えなどでCO<sub>2</sub>削減の成果が出ています。
- ②フードマイレージの視点の導入による県産品・国産品の普及（惣菜部、酒・米部等商品各部）
- ③電気ダイエットコンクールや、レジ袋節約率40%突破等組合員を含めた環境活動の幅の拡大
- ④I E S 認証1社、申請中2社等EMSの普及活動及び森林の募金の継続的実施等の地域協調活動の実施

#### ■目的・目標に関して

- 2007年度目的・目標の新規設定を行い、管理向上を図っています。
- ①チラシの有効性を「レスポンス率」で判定することにより、紙資源の有効利用、使用削減（共済事業部）
  - ②レジ袋の節約率
  - ③フードマイレージ概念の導入によるCO<sub>2</sub>削減への取り組み

#### ■資源、役割、責任及び権限に関して

経営トップ(理事長)の資源の投入(投資)判断によりボイラーの旧設備の廃却、小型化導入により法適用項目の削減を図りました。(大気汚染防止法)

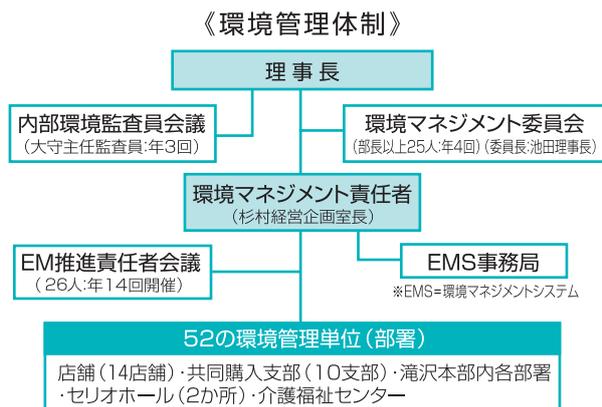
#### ■文書管理に関して

監査規程、所屬長規程を廃止し、マニュアルに統合しシステムの軽量化及び主要13項目での改定が実施されています。手順書の登録、改訂について従来は環境マネジメント推進会議にて承認を行っていましたが、部門責任者が実施するよう変更したことにより、文書の承認システムの軽量化が図られています。

#### ■内部監査に関して

監査員の力量アップ教育、事前及び監査後のまとめの監査会議を実施し、監査の信頼性・有効性向上を図るとともに監査結果報告書では、組織の問題点を明確にし、システム改善の基礎となる情報のまとめが実施されています。

## 環境マネジメント活動



- 1) 環境マネジメント委員会（委員長 池田和昌理事長）  
理事長以下常勤理事、部長メンバー25人で構成し、環境活動全般を審議します。2007年度は4回開催されました。
- 2) 環境マネジメント推進責任者会議  
（主宰 杉村洋一環境マネジメント責任者）  
各部の環境活動推進責任者26人で構成し、環境管理計画の起案、日常の活動推進、月度の進捗状況を審議します。2007年度は14回開催されています。

### ■内部環境監査

- ①実施期間 2008年1月30日～3月1日
- ②内部環境監査員 28人
- ③監査対象 52の全事業所およびシステム全体
- ④監査の所見 54件（重大な不適合5件、軽微な不適合25件）観察31件
- ⑤監査所見メモ 推奨事例等 84件を集約・記録

### ■事故緊急事態の発生（1件）

2008年3月3日北上市和賀町で灯油を給油したところ、ホームタンク下部バルブが開いており、灯油約130ℓが漏洩する事故がありました。（消防署、北上市に連絡し吸着マットや油水分離の処置、側溝から回収等の応急処置を行いました。その後土壌入替え処置を実施し、処置終了を消防署から確認いただきました。）

### ■環境に関する苦情等（2件）

店舗駐車場内、および共同購入配達車両のアイドリングストップが不徹底ではないか、と2件の指摘をいただきました。（会議報告、環境かべ新聞で周知し改善を呼びかけました。）

### ■環境関連の法規制と順法状況

環境関連の法規制について「環境法規制等登録表」に34本の法律と条令を登録し順守状況を監視しています。産業廃棄物、アスベスト回収処理、フロン回収破壊処理、建設廃材リサイクル、家電リサイクル、PCB保管等ですべて適正処理の証拠（マニフェスト等）を確保しています。内部環境監査では産業廃棄物排出管理票（マニフェスト）の一部に記入不備が指摘されは正中です。

## ISO14001による環境目標は「電気」「燃料」が未達成でした

ISO14001：2004年版では環境影響の評価結果に基づき、環境負荷を削減する目標を定めて継続的に取り組むことが求められます。2007年度は、23項目（他に商品の目標7項目＝結果は33ページ）の目標を決めて活動しました。その結果、17項目で目標を達成しましたが、環境影響の大きい電気使用、共同購入配達車両の燃料の項目は、夏の高気温や個人配達の増加などの影響で未達成となり、問題を残しました。

### 2007年度環境活動の結果

○目標達成 △未達成だが改善 ×未達成

目標項目	目標内容	結果	コメント
1 電気使用量を削減する	前年比99.25%にする	×	比較可能店舗では前年を下回りましたが、セットセンターの本格稼働、本部改装等で生協全体では増加。
2 コピー回数を削減する	前年比95%にする（本部外では記録する）	○	本部で前年169万回から113万回となり30%削減し、達成できました。
3 コピー紙（内部印刷用紙）を削減する（A4版換算）	本部北棟2Fで前年比95%に管理する	×	前年189万枚から213万枚へと増加。コピー回数が減少し印刷が増加。いわて生協全体でも884万枚となり32万枚増加。
4 効率的な共済宣伝活動	共済チラシの発行と加入率のデータを把握する	○	共済チラシのデータにより、チラシ内容や配布枚数の検討で加入率が向上。
5 廃棄物の削減	物流TC課で95年度比90%にする	○	いわて生協全体の廃棄物は前年比93%に削減。
6 廃棄物の有価物化とコストの把握	廃棄物を有価物として売却することを推進	○	廃プラスチックや廃食油の有価物化を実現。リサイクル回収物の価格交渉を推進。
7 レジ袋節約率の向上	全店平均45%到達	○	全店平均45.8%に到達（2008年3月度）。
8 水産品を袋包装で開発する	3アイテムの開発	○	しめさば、いか一夜干し、カキフライを新規開発。
9 アイコープ商品の包装改善	包装材料の軽量化など改善可能性を探る	○	アイコープ商品メーカーに包装改善の調査を要請し、15社から回答を得た。
10 農産ダンボール使用の削減	コンテナ配送を推進する	△	年間38,234枚のダンボールを削減できたが、目標の4万枚には届かなかった。
11 共同購入配達車両の燃料節約	燃費を前年比2%向上させる	×	2006年度1ℓ当り5.62km走行したが、2007年度は5.44kmにとどまった。
12 燃料使用の見直し	業務用車両燃料の基準見直し	○	提案から組織合意へ進み、2008年度実施に。
13 フードマイレージの調査研究	フードマイレージの考え方の調査研究	○	検討会を3回開催し、基礎資料の収集を進めた。
14 家電メンテナンス企画の実施	家電センターで暖房機分解清掃企画を行う	○	夏秋に344件の利用があり、目標227件を大きく上回った。
15 断熱ガラス（あんみつペアガラス）の普及	住宅の断熱性を高め省エネに寄与する	×	年間150件の施工目標に対して、130件の成約にとどまった。
16 自動車事故保険にリサイクル部材使用の付帯特約を進める	事故修理にリサイクル部材を使用して省資源を図る	○	初の取り組み。下期だけで53件の付帯特約が成約できた。
17 環境情報の発信	セールチラシ他で環境情報を発信する	○	セールチラシ、店内放送、家電センターニュース等で計画的に情報発信をした。
18 環境教育の推進	組合員が温暖化を考え行動する機会を増やす	○	電気ダイエットへの参加者450人。温暖化の学習機会23回設定。
19 環境教育の推進	産直や環境商品の学習・試食参加者の増加	△	つどいでの商品試食学習5,972人、商品おためし委員会での商品学習1,100人、産直牛乳のおすすめ活動41か所。
20 地産地消運動の推進	生産者との交流活動や産直運動推進大会の参加	○	交流会1,557人、産直運動推進大会360人の参加。
21 EMSの取引先・他企業への普及	いわて環境マネジメントスタンダード（IES）を普及する	○	第2回企業経営と環境問題セミナー開催、IES構築講座、集合コンサル実施。
22 常勤者が環境問題を学び、行動する	電気ダイエット参加、常勤者の学習、キャンドルナイト参加など環境意識を高め、行動する	○	物流TC課、介護・福祉センター、セットセンターで全員参加をめざす取り組みとして推進された。
23 ISO14001:2004の審査員資格者を育成する	研修会への派遣	○	1名が集中研修に参加しISO14001審査員となる資格を持つ者が2名に増員された。

## year.1990 ~ 1999

- ◆牛乳パック回収スタート（1990年）
- ◆レジ袋節約スタンプ制スタート（1990年）
- ◆本部構内の廃紙、使用済み共同購入注文用紙の回収開始（1991年）
- ◆発泡スチロールトレイの回収スタート（1991年）
- ◆朝配達牛乳のびん容器化実験開始（1992年）
- ◆720mlびん牛乳の朝配達を全県でスタート（びん牛乳普及で牛乳パック回収量減少）（1993年）
- ◆店頭の飲料自販機の台数削減（1994年）
- ◆ペットボトルの店頭回収スタート（1995年）
- ◆共同購入配達トラックにLPG車導入（1995年）
- ◆共同購入盛岡3支部で使用済みチラシ回収、未使用注文用紙回収。翌年全支部で実施。（1996年）
- ◆リサイクルトレイへの切り替え（1997年）
- ◆盛岡市「ゴミ減量、リサイクル協力店」市内11店舗認定（1997年）
- ◆ペットボトルの回収システム、ルールの変更（卵パックに再生）（1998年）
- ◆回収した卵パックを卵パックにするシステムに切り替え（1998年）
- ◆共同購入回収チラシを原料にしたアイコーブトイレットペーパーの開発（県内製紙工場、漂白に塩素不使用）（1998年）
- ◆200ml低温殺菌びん牛乳新発売（1999年）
- ◆滝沢本部構内でリサイクルの分別、減容作業を県社会福祉事業団に委託（1999年）

## year.2000

- ◆12月21日、県内小売業で初めてISO14001認証取得、登録

## year.2001

- ◆10月のいわて大環境祭（アピオ）に参加・出展し、いわて生協の環境活動をアピール
- ◆遺伝子組み換え原料、飼料の排除のとりくみが進む
- ◆コープ花北オリザ（北上市）の生ごみが11月に北上市のコンポストプラントに参加、リサイクルへ
- ◆印刷物の仕様を見直し、大豆インクへの切り替えを実施

## year.2002

- ◆組合員カードの導入により、レジ袋節約がポイント制に移行
- ◆共同購入シッパー内袋を生協事業所で使用するごみ袋としてリサイクル化

## year.2003

- ◆レジ袋節約率が30%を突破
- ◆4月からコープアテルイ（水沢市）の生ごみが堆肥化リサイクルに移行
- ◆共同購入でコース再編、週5日配達実施で車両を20台削減
- ◆ISO14001更新審査を受け、認証を継続

## year.2004

- ◆ポラン農業小学校の活動が全国的に注目される  
「いわておもしろ地産地消大賞」受賞（2月）  
「いわてグラフ」「地上」等に掲載される
- ◆岩手県のエコショップ認定事業への申請
- ◆レジ袋節約率33%に。年度末目標達成
- ◆各種印刷物・帳票類の再生紙への切り替えが終了し、環境方針から「古紙混合率引き上げ」削除

## year.2005

- ◆レジ袋節約率35.5%に。中期の目標を達成
- ◆「森林（もり）の募金」（2004年度分）県内4団体に40万円を寄贈
- ◆「森林（もり）の募金」（2005年度分）県内3団体に30万円を寄贈
- ◆共同購入トラックでバイオディーゼル燃料走行実験
- ◆14店舗が県内最初の「エコショップ認定」を受ける（その後全15店舗が認定）
- ◆太陽光発電、エスコ事業などの温暖化対策の検討

## year.2006

- ◆レジ袋節約率37.6%に。年間で465万枚を節約
- ◆共同購入トラック6台がバイオディーゼル燃料で走行
- ◆新設のセリオホールみたけに太陽光発電を導入
- ◆エスコ事業を2店舗で導入し温暖化対策実施
- ◆「森林（もり）の募金」（2006年度分）県内5団体に50万円を寄贈

## year.2007

- ◆レジ袋節約率45.8%。年間502万枚節約
- ◆廃プラスチックのリサイクルを拡大
- ◆フードマイレージの視点で県産・国産の商品普及推進
- ◆第4回「森林（もり）の募金」県内3団体に30万円を寄贈